

【外国語・中2・look+形容詞, S+V+O+O, S+V+O+C】①

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) look+形容詞, S+V+O+O, S+V+O+C に関わる外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
- (思・判・表) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、飼いたいペットの紹介について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (主体態) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に look+形容詞, S+V+O+O, S+V+O+C を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

自分の飼いたいペットの紹介資料を作成するためのプレゼンテーションソフト、翻訳機能、共有ドライブの活用

【つかむ】

教師の飼いたいペットについての発表を聞き、そのよさを基に、単元のめあてをつかむ。

【追究する】

人やものの様子や、誰かに何かをする、人やものの呼び方の表現について、Listening, Speaking, Writing, Readingの活動を行う。

【まとめる】

自分の飼いたいペットの紹介資料を作成し、発表する。

事例の概要

- 自分の飼いたいペットの紹介資料を翻訳機能で英語を調べながら、プレゼンテーションソフトで作成する。
- 共有ドライブに各自の飼いたいペットの紹介資料を保存し、互いの資料を参考にしながら、自分の資料を改善する。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 飼いたいペットの紹介資料に必要な単語や画像を調べ、自分の思いを具体化した資料を作成する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 共有ドライブに保存した友達の資料を閲覧しながら、参考にしたい文章を見つけ、自分の資料に合うような文章を作成する。さらに、自分のクラスだけでなく、学年全体の友達の資料も閲覧できるようにしておく。

【外国語・中2・look+形容詞, S+V+O+O, S+V+O+C】②

【事例におけるICT活用の場面①】

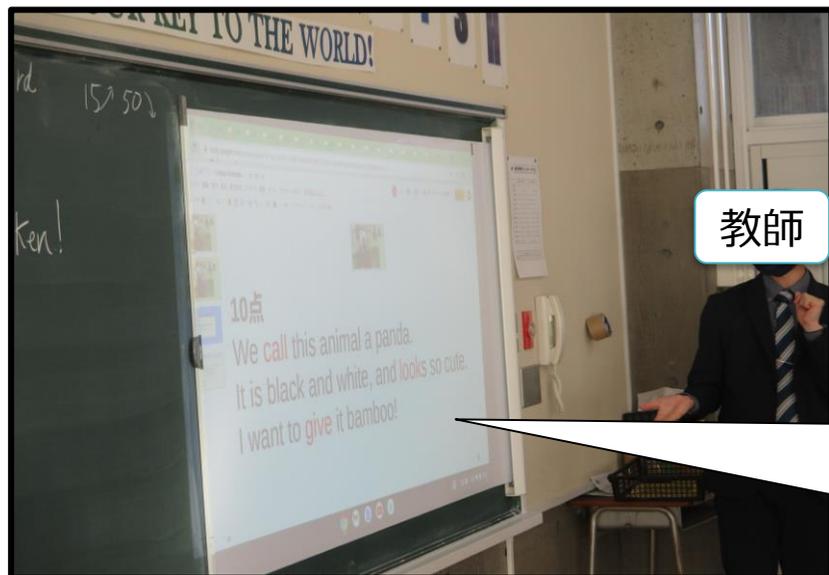


自分の飼いたいペットの紹介資料を作成するために、プレゼンテーションソフトを活用した。生徒は、必要な単語や画像を調べ、紹介文を作成した。その中で、スペルのわからない単語や文を翻訳機能で調べていた。その上で、作成した文を教師に確認し、自分の紹介資料に自信をもっていた。

生徒の中には、テーマについて伝えたい内容や思いをもつことはできても、その英語表現に自信をもてず、伝えたい内容や思いを自分が知っている範囲の英語表現にしてしまう生徒もいる。目的や場面、状況に応じた英語表現を大切にする上で、生徒が英語表現をあきらめてしまうことはとても残念なことである。プレゼンテーションソフトで容易に英語の文を作成したり、翻訳機能で内容や思いの英語表現を調べたりすることで、自分の思いを大切にしたいペットの紹介資料を作成することができた。

【活用したソフトや機能】 ・プレゼンテーションソフト 翻訳機能

【事例におけるICT活用の場面②】



自分の飼いたいペットの紹介資料を作成する中で、共有ドライブ上の友達の資料を閲覧した。生徒は、自分の資料と友達の資料を比較しながら、友達の資料の中の英語表現のよさを見つけていた。さらに、教師は、板書で本時のねらいに応じた英語表現を用いている友達の資料を紹介し、閲覧するよう促していた。生徒は、友達の英語表現を参考にすることで、自分の伝えたい内容や思いに合った英語表現に改善していた。

生徒にとって、一度形にした文章を改善することは英語に限らず改善することは難しい。自分の文章を作成しながら、共有ドライブ上の友達の資料を参考にすることで、文章を形にする前に、自分の文章を見直すことができるため、改善することが容易になる。加えて教師の紹介を参考にしながら、繰り返し文章を見直せるため、伝えたい内容や思いに合った英語表現を吟味することができる。

【活用したソフトや機能】 ・共有ドライブ